

ポリオはワクチンで予防できる病気です



日本でポリオの流行がピークに達したのは1960年のことです。5千人をこえる患者さんがみられましたが、ポリオワクチンを導入したことで、流行はおさまり、1980年以降はポリオの野生株による患者さんは報告されていません。しかし、世界的にみると、2008年には1655人のポリオ患者が報告されており、国際交流がさかんな現在では、海外からポリオウイルスが持ち込まれる可能性も考えられます。

また、近年、世界各地でワクチン由来のポリオウイルス（VDPV）による流行が報告されています。日本でもVDPVによる患者さんは報告されていますが、流行には至っていません。

ポリオは発症すると、麻痺が後遺症として残ることがあります。ワクチンで予防することが大切です。

ワクチンの副作用はあるの？

ポリオワクチンは、ウイルスを弱毒化した生ワクチンです。約400万回接種あたり1人の割合でポリオにかかったような麻痺が生じることがあります。また、下痢（発現率約4%）や発熱（2%）、嘔吐（1%）といった症状が、ワクチン接種後、数日の間にみられたと報告されています。



ワクチン接種を受けた人の便をとおして ポリオウイルスに感染することがあります

ごくまれ（約700万回接種あたり1人）にですが、ワクチン接種を受けた人の接触者にポリオにかかったような麻痺が生じることがあります。これは、ポリオワクチンに含まれる弱毒化されたウイルスが、腸の中で増殖するうちに毒性を回復し、このウイルスが便の中に出て、周囲の人の手などを介して口に入り、感染するためです。

特に、ポリオのワクチン接種をしていないお子さんなど、ウイルスに免疫のない人や、免疫機能が弱っている人はウイルスに感染する可能性が高いため、注意が必要です。

オムツ交換後の手洗いが重要です



ワクチン接種後6週間は、ポリオウイルスが便に排出されるといわれています。特に初回接種の後1～2週間目には、便中のウイルス量は最大になると報告されています。

ワクチン接種してから1か月は、オムツ交換後の手洗いをしっかりと行いましょう。

〔参考〕

「ポリオ」と「ポリオの予防接種」を知っていただくために（厚生省 平成12年8月31日）
病原微生物検出情報（IASR）Vol.30 No.7（No.353）July 2009、経口生ポリオワクチン添付文書
横浜市衛生研究所ホームページ（<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/polio1.html>）